

●ヒブ感染症（インフルエンザ菌b型感染症）

特徴と感染経路

- 感染は0～1歳台に多いです。
- 保菌者（症状のない人）の咽頭に菌がいる。→飛沫感染する。
- 菌はノドや鼻から侵入し、一部の感染者では血液に入り全身感染症となります。
- 乳幼児で重い病気を起こすことがあります。
　　・髄膜炎、喉頭蓋炎、関節炎、皮下組織の感染、肺炎など

症状と経過

- 潜伏期間は極めて低く、感染後24時間以内に全身に拡がります。
- 症状は突然の発熱（38.5℃以上）と不機嫌で、時にけいれんを伴います。
- 放置すると、時間単位で重症化します（最も怖いのは髄膜炎と喉頭蓋炎）

髄膜炎

- 非常に重く恐ろしい病気です
- 死亡率2～5%、後遺症15～30%
　　（脳障害、てんかん、難聴など）
- 治療は抗生素質の投与。
　　しかし、早期診断は非常に難しいです
　　（発病初期は発熱のみ、血液検査しても分からず）
- 最近では抗生素質の効きにくい耐性菌が増えています

喉頭蓋炎

- 気管入口付近の感染、窒息することがあります

ワクチン

- 不活化ワクチンです。
- 生後2ヶ月以上からの早期接種が望ましく、年齢により接種回数が異なります。
- 接種者の95%以上は感染しなくなります。

●肺炎球菌感染症

特徴

- 肺炎球菌は、肺炎などの呼吸器の感染症や全身の重篤な感染症を引き起こします。
- 主要な病気は、肺炎、細菌性髄膜炎、中耳炎、敗血症です。

代表的な病気と経過

- 細菌性髄膜炎は、非常に重篤な感染症です。
- 発熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどをきたします。
- 新生児・乳児では症状が明確でないことが多いが、発見が遅れる事が多いので注意が必要です。
- 死亡率約10%、後遺症（水頭症、知的障害、運動麻痺、てんかん、難聴など）が、約30%に発現します

ワクチン

- 小児用肺炎球菌ワクチンを使います。
- 不活化ワクチンです。
- 接種対象年齢は生後2ヶ月から接種できますので、できるだけ早く接種しましょう。

ワクチンで防げる病気ガイドライン

～子どもを恐ろしい病気から守るために～

ワクチンで防げる病気はワクチンを受けて予防しましょう！

兵庫県医師会・兵庫県

1.

感染症とは

- ウイルスや細菌などの病原体が、空気・唾液・皮膚の接触などから人の体に入り込み引き起こす病気のことです
- 感染症を防ぐには

- 1) 病原体を殺す
- 2) 体力をつけ抵抗力を高める
- 3) ワクチンを打って免疫をつける

ワクチンの種類

ワクチンで防げる病気（VPD）

- 弱毒生ワクチン 病気を引き起こす力を弱めた生きた病原体を使用しています
- 不活化ワクチン 病原体を殺したものを使用しています

- 前もってワクチンを接種することで感染が防げる感染症のことでVPDといいます
- ワクチンの種類と病気

生ワクチンで防げるVPD

麻疹（はしか）、風疹、水痘（水ぼうそう）、おたふくかぜ、ロタウイルス腸炎、結核

不活化ワクチンで防げるVPD

ジフテリア、百日咳、破傷風、ポリオ、Hib感染症、肺炎球菌感染症、インフルエンザ、A型肝炎、B型肝炎、日本脳炎、子宮頸がん（ヒトパピローマウイルス）

2. ワクチンで防げる病気として

●おたふく風邪

特徴と感染経路

- 唾液腺が腫れます。
- 飛沫感染でうつり、潜伏期間は14日です。

症状と経過

- 主に耳下腺（耳の下）が腫れます（約1週間）。頸下腺（あごの下）、舌下腺も腫れることができます。
- 押さえると痛いです。
- 熱が出ることもあります。

合併症

- 髄膜炎（15%）…発熱・おう吐が起こります。
- 脾炎（2～5%）…強い腹痛が起こります。
- 難聴（0.1%）
- 年長時では睾丸炎・卵巣炎。

ワクチン

- 弱毒生ワクチン、2回接種すると96%に免疫ができます。
- 米国ではワクチン定期接種開始後ほとんどおたふく風邪が発生していません。
- 日本では任意接種のため接種率が低いので流行が減りません。

